

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名: **大学院医歯薬学総合研究科 医学系
医療教育統合開発センター**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標 学部、研究科、病院、医療教育統合開発センターなどが一体となり、医療系を中心としたシームレスでかつ多様性に対応できる医療人育成のキャリアパスを実践することで、問題点の検討を図る。 すべての大学院コースの定員充足を目指す。 医療教育統合開発センターの充実を図り、医療系教育の有機的・機能的な展開を進めることで、さらに医育機能の充実と教育機器の有効的な利用促進を進める。	自己評価 ・平成26年度大学院入学定員は充足した。(博士課程:定員128名のところ、137名、修士課程:定員20名のところ、25名の入学手続きが完了している。) ・H25年度に医療教育統合開発センター関係で実施したセミナー、ワークショップ、講習会は合計8件。詳細はHP (http://www.okayama-u.ac.jp/user/cdmhe/pub019/pub019/src/ivent.html) に掲載している。そのほかにも学内外の教育集会等の支援を行っている。 ・医学部の臨床実習前教育においても、小グループのシミュレーション実習を秋に行った。また、臨床実技入門のコーディネートをを行った。 ・医学部では臨床実習終了後の技能評価目的に平成25年9月7日にadvanced OSCEを実施し、教育効果の客観的評価法の確立に向けた取り組みを実施している。 ・臨床系教育の有機的・機能的な展開を進め、その機能の充実を図る目的で、学内の教職員を対象としたFDとして、「夏のFD」を医学科教務委員会と共同で実施した(平成25年8月2日:岡山商工会議所)。 ・医療教育統合開発センターのシミュレータの利用実績はHP(http://www.okayama-u.ac.jp/user/cdmhe/pub019/pub019/src/simuse.html)に掲載している。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・新入大学院生数および分子イメージングコース学生評価(学年進行中)。 ・医療教育統合開発センターの活動に係る数値(年間の教育機器利用数など)	
②研究領域	
②-1 目標 地域産学官共同研究拠点整備事業おかもまメディカルイノベーションセンター(OMIC)の運営を円滑に行い、産学官の分子イメージング研究を推進する。 研究者間情報交換の機会をさらに広げるとともに、大型の科研費及び外部資金のさらなる獲得のためのコア・ミーティングを開催し資金獲得を目指す。 他の医療系(保健学研究科・環境生命研究科など)との研究交流をさらに活発化させ、新たな研究シーズにつき検討しその臨床応用に向けた取り組みを具体的に開始する。	自己評価 ・OMIC施設の管理・運営に関しては、今年度の計画に沿って着実に遂行し、研究成果を挙げている。具体的には共用事業としての利用促進を図るため設備利用料金の免除に関する申し合わせ(平成25年9月3日付制定)や共同利用取扱要項の一部改正(平成25年10月8日、同26年3月4日)等を行い利用促進を図った。共同研究誘致や情報発信事業としては、Bio Japan2013、Nano tech 2014、日本核医学会展示会への出展や、共用事業開始記念講演会の開催(平成25年12月6日)と施設見学会の併催を行い、個別の研究相談に応じた。また、日本臨床検査業協会の会員企業を対象に共用事業説明会を平成26年3月19日に開催した。さらにHP等を活用してOMIC情報を発信している。この結果、平成25年度はインキュベーション施設に5社が入居し遺伝子関連医薬開発、イメージ診断技術の開発プロジェクトが進行した。 ・毎月研究開発委員会ヘッド会議を開催して大型の科学研究助成金や外部資金の獲得に向けた情報交換を行っている。さらに研究科内で研究者間情報交換のため、宿泊交流合宿「BS in 牛窓」(平成25年9月7-8日開催)や講演会「医学研究のトレンド2014」(平成26年2月13日開催)を行い研究者間の交流に努めた。 ・平成25年度から保健学研究科とは具体的な連携についての話し合いが開始されている。自然科学研究科・環境生命科学研究科とは医工連携大学院を中心として平成25年度から5回の連携に向けた会議が開催されている。 ・科学研究費補助金の獲得状況については、平成25年度は前年度と比べて件数、金額とも若干の低下が見られるが、ほぼ同水準を維持している。また、寄付金、共同研究、受託研究の受入状況については、前年度と比べて採択件数では増加、助成金額では若干の低下が見られるが、全体としてはほぼ前年度と同水準を維持している。 ・分子イメージングに係る研究数は24件を数えている。 ・検討した研究シーズは数件ではあるが、1件は医師主導の臨床試験である。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・分子イメージングに係る研究数(ラボ入居件数、研究科・保健学研究科・病院での研究論文数の合算)。 ・科研費及び外部資金獲得額(研究科)。 ・検討した研究シーズとその臨床応用に向けた取り組みの数。	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標 岡山県地域医療再生計画を推進し、新設される地域医療人育成センターおかもまと共同して、地域医療人育成事業を継続して行うとともに、女性医師等の復職支援事業のさらなる充実を図る。 学部、病院とも連携して、岡山市の進める医療連携をさらに充実・発展させる。	自己評価 ・岡山県地域医療再生計画に基づき、地域医療を担う人材の育成に積極的に取り組んでいる。具体的には平成24年2月に発足した地域医療支援センターと協働し、地域枠学生の卒業キャリアパスの構築をすすめ、8月には2回目となる地域枠学生と自治医科大学学生の合同セミナーin牛窓の開催などの新たな取り組みを行った。学生教育に関しては、これまでの1、3年の地域医療体験実習(地域枠必修+一般枠選択)5年の離島実習に加えて6年の選択実習を開始した。また、24年度3月より3-4年生の地域医療体験実習の必修化がスタートし、実習施設の大幅な増加など大幅な改編に対応して十分な実習を行うことができた。 ・女性医師等の復職支援事業は順調に成果を上げており、平成25年度の大病院への新規復職者14名、地域医療機関への新規復職者は1名であり、平成20年度からのトータルは大病院への復職92名(医員:89名、レジデント:2名、研修登録医:1名)、地域への復職29名(地域医療機関へ直接復職:8名、支援制度利用終了直後に地域医療機関へ復職:23名)である。地域医療人育成事業の企画件数:地域医療実践セミナー2回、復職のためのシミュレーショントレーニング:8回、女性医師対象勉強会:22回、キャリア支援フォーラム:1回、各種講演会(介護、次世代育成):10回、医師・医学生交流会1回(メンター・メンティ)。 ・「岡山大学と岡山市との保健医療連携に関する協定」の中で、地域医療を担う医師等の教育・人材育成を推進する事業を実施するために、新たに連携大学院協定を締結し、平成26年4月より連携大学院「実践総合診療学講座」を開設する運びとなった。自治体病院と大学との連携大学院は国内初となる。この連携講座では、総合診療・地域医療・プライマリーケアを担う岡山市立市民病院の特性を活かした臨床データを解析し、それを基盤に岡山大学で臨床研究・疫学研究を展開する。岡山市の援助のもとで、大学院生が市民病院と岡山大学両方で多様な実臨床の現場を数多く経験でき、経験を基盤とした総合医療教育をスムーズな形で実践するとともに、岡山から発信する臨床研究レベルの向上、さらには日本国民に対して岡山発の新たな臨床エビデンスの提供を期待する。平成26年4月からの連携大学院生1名が、現在入学予定である。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・地域医療人育成事業によるセミナー企画などの実施件数。 ・復職医師数。 ・連携大学院(岡山市立市民病院との)事業への参加医師数	
【総括記述欄】	
・平成25年度の年度目標をおおむね達成できた。また人材育成の面では飛躍的に実績を挙げつつある。さらに次年度ではこれを発展させ、人材育成の効果についての検証を開始するなど客観的な指標をもって評価を行う予定である。	